

「住んでよかった」「住みたくなる」綾部”実現へー

平成28年度の当初予算が3月定例市議会で可決されました。全会計の予算総額は408億5,280万円で、過去2番目の規模。第5次綾部市総合計画後期基本計画のスタートの年として、教育の充実や市民の安全・安心の確保に重点配分した積極的予算を編成しました。「医・職・住」+「教育」「情報発信」とともに、連携による綾部創生をキーワードに「住んでよかった」「住みたくなる」まちづくりを進めます。



- 居宅医療的ケア支援 (141万円)
- 障害者グループホーム整備推進 (302万円)
- 療育教室運営 (1,504万円)
- 放課後学級運営 (7,480万円)
- 物部保育園改修 (5,274万円)
- 認定こども園運営 (49,545万円)
市内5園を認定子ども園へ移行。
- 子育て世代包括支援センター (106万円)
妊娠から子育て期にわたるさまざまなニーズに対して、総合的相談支援を提供する子育て世代包括支援センターを設置。
- 乳幼児すこやかクリニック (26万円)
- 児童扶養手当支給 (15,565万円)
- 清山荘改修 (229万円)
- 年金生活者等支援臨時福祉給付金支給 (1,620万円)



医

平成28年度当初予算の規模

○ 一般会計	170億 397万円
④ 特別会計	140億2,156万円
⑤ 公営企業会計	98億2,727万円
合計	408億5,280万円
+	平成27年度への前倒し計上分
	4億6,198万円

- あやべの米づくり支援 (381万円)
- パイプハウス整備 (2,818万円)
- 地籍調査 (200万円)
- 循環型林業推進 (366万円)
森林台帳整備や木材搬出のための作業道などの維持補修に対する補助を行い、循環型林業の構築への取り組みを推進。
- ニホンザル捕獲 (203万円)
ニホンザルの捕獲施設設置を支援。
- チャレンジショップ支援 (240万円)
市内での店舗などの開設を支援。
- 北部リサーチパーク推進 (100万円)
北部産業技術支援センター・綾部を核とした北部リサーチパーク構想を推進。
- 観光振興 (213万円)
- 農業施設改修 (3,383万円)
綾部ふれあい牧場のトイレ洋式化や合併処理浄化槽設置などを実施。



- 総合防災訓練 (130万円)
防災関係機関や自主防災組織などと連携し、総合防災訓練を実施。
- 原子力防災対策 (1,006万円)
原子力防災体制強化のため避難用車両を配備。

住

- 内水対策 (620万円)
災害応急対策として仮設ポンプ2基を設置。
- 橋りょう長寿命化対策 (11,200万円)
- ④ 雨水対策 (1,170万円)
- ④ 簡易水道統合整備 (75,132万円)
- ④ 新第一浄水場整備 (139,608万円)
- 道路整備 (15,124万円)
- 青野豊里線整備 (7,100万円)
- 空家等対策 (50万円)
- コミュニティ放送中継局整備補助 (2,894万円)
- 里山交流研修センター施設整備 (18,024万円)
「森の京都」重点エリアに、拠点となる施設を整備。
- Uターン者定住支援住宅整備 (704万円)



職

教育・情報発信

- 飛び立て！中学生海外派遣 (839万円)
国際理解教育の一つとして、中学生をオーストラリアへ派遣。
- 東綾中学校改築 (46,021万円)
- 給食室整備 (700万円)
市内全校での完全給食実施に向けた綾部・八田中学校の実施設計などを実施。
- 幼稚園整備 (5,923万円)
東八田・西八田両幼稚園を統合し、3年保育の幼稚園を整備。
- 特別支援教育支援員配置 (2,013万円)
- 社会体育施設整備 (24,513万円)
市民センターと武道館の機能統合に向けた実施設計と用地購入などを実施。
- 国宝光明寺二王門整備費補助 (300万円)
- ゆるキャラ戦略展開 (43万円)



前倒し計上分の3月補正予算での

- 国の補正予算を活用し、3月補正予算と一体的に予算を編成
- 地方創生加速化交付金 (8,496万円)
「綾部市まち・ひと・しごと」総合戦略の推進。
- 東綾中学校改築 (16,942万円)
- 放射線防護対策 (200万円)
奥上林公民館に食料や水、毛布などの備蓄資機材を配置。
- 年金生活者等支援臨時福祉給付金支給 (18,328万円)
- 工場設置奨励金交付 (8,616万円)

人工林資源の循環利用へ 林業推進計画策定

市域の豊富な人工林資源の循環利用を推進するため、綾部市林業戦略会議（座長、田中和博・京都府立大学副学長）は今年3月、2年にわたり検討してきた方策などを「綾部市林業推進計画」としてまとめました。

各分野の主な取り組み

- 人材育成のため講習会を実施
- アクセス道の改良や新規作設に対する補助金の導入
- 森林資源量などが可視化できるシステムの導入
- 高性能林業機械の導入支援



- 公共建築物の木造・木質化を行政が率先して推進
- 地域産材利用促進のための補助制度導入

- 木材の買い付けや施業の手法検討
- ストックヤードの整備支援

木材の増産と利用を推進

こうした状況の中、市は平成25年度に「綾部市森林マスタープラン」を策定。人工林の整備指針と

います。

います。

管理されない森林が増加

綾部市は総面積の77%を森林が占めています。うち、戦後に植林した人工林が45%を占め、資源として利用可能な時期にも関わらず、木材価格の長期低迷などにより、森林所有者の林業への関心が薄れてきているのが現状。また、所有者の不在や高齢化などにより管理されない森林が増えてきたことから、森林が持つ雨水貯留による洪水の緩和や水質浄化、山地災害防止などの多面的な機能が低下しています。

して、利用可能な森林資源量の把握などを行いました。「綾部市林業推進計画」は同プランを基に、資源の有効活用による林業振興と農山村の活性化を目指し、国や府の動向も踏まえながら策定したものです。

同計画では、川上（原木生産）と川中（加工流通）、川下（木材利用）それぞれの分野の課題を明らかにし、その対応として、各分野において取り組む事項と行政が取り組む事項を示しました。

市は今後、同計画に基づき関係機関と連携しながら、木材の増産と利用を推進する取り組みを行います。

表＝組織機構の改編内容（※太字部分が改編対象）

現行		改編後	
企 画 部	企画政策課	企 画 部	企画調整担当 連携推進担当
	企画政策担当	企 画 部	財政担当
財 政 部	財政課	財 政 課	財政担当
	予算担当 計画担当		
農 林 部	農林課	農 林 部	農業振興担当 林業振興担当
	農林振興担当		
建 設 部	都市建築課	建 設 部	都市計画課 住宅・家等対策担当 建築課
	住宅担当 都市計画担当 建築担当		
消 防 部	警防課	消 防 部	警防課
	警防担当 救急救助担当		警防第1担当 警防第2担当 救急担当

今年度は「第5次綾部市総合計画後期基本計画」スタートの年であり、着実な執行体制を確立するため、一部組織の改編＝表＝を実施し適材適所の配置を徹底。異動後の体制（課長級以上）は次のとおりです。＝太字は新任（異動）

- 企画財政部** 部長＝高橋学▽秘書広報課長＝立藤聡▽企画政策課長＝岩本正信▽財政課長＝吉田清人
- 総務部** 部長＝中野誠▽次長（総務課長事務取扱）＝白波瀬清孝▽総務課防災主幹＝高橋一彦▽税務課長＝梅原正巳
- 市民環境部** 部長＝四方慎行▽次長（市民協働課長事務取扱）＝亀井洋二▽市民・国保課長＝黒田美鈴▽人権推進課長＝野間止樹▽環境保全課長＝森津充好
- 福祉保健部** 部長＝四方裕之▽次長（保健推進課長兼保健福祉センター所長事務取扱）＝大槻広敏▽民生児童課長＝大石浩明▽同課主幹（物部保育園長事務取扱）＝谷口留美子▽福祉課長＝福田和宏▽高齢者介護課長＝諏訪博幸▽同課主幹＝婦木しおり▽保健推進課長＝山西やよい
- 消防本部** 消防長＝柳原秀一▽次長＝上原博一▽管理課長＝塩見幸作▽予防課長＝四方繁行▽警防課長兼消防署長＝矢田谷和行
- 上下水道部** 部長＝坂本成樹▽次長＝前田義則▽水道課長＝檀野彰▽下水道課長＝柳田嘉宏
- 議会事務局** 局長＝西川卓男▽次長＝四方恵美子
- 定住交流部** 部長＝四方秀一▽定住促進課長＝松原哲也▽水源の里・地域振興課長＝朝子直樹▽観光交流課長＝四方雅弘
- 建設部** 部長＝大槻和正▽監理課長＝四方博▽建設課長＝大槻伸一▽建築課長＝白波瀬敏博▽同課主幹＝飯田政利
- 会計課** 会計管理者兼会計課長＝山西やよい
- 教育委員会事務局教育部** 部長＝岡垣美樹▽参事＝小林治▽学校教育課長＝飯室誠▽同課主幹＝小林直子▽社会教育課長＝塩見勲生▽同課主幹兼資料館長＝三好博喜▽同課主幹兼天文館長＝大槻直樹▽同課主幹兼図書館長＝生駒彩子▽文化・スポーツ振興課長＝村上哲也▽綾部幼稚園長＝渡辺真千子▽東八田幼稚園長兼西八田幼稚園長＝吉田純子
- 監査委員事務局** 局長＝塩見浩央

組織と人事

着実な執行体制に

市は4月1日、都市建築課を廃止し、都市計画課、建築課とするなど組織を一部改編するとともに、職員140人に人事異動を発令しました。

副市長に山崎清吾氏



山崎清吾氏＝写真＝の副市長選任案が市議会3月定例会で同意され、4月1日付で第19代の副市長に就任。任期は4年です。

就任あいさつ＝「長年の行政経験を生かし、ふるさと綾部のさらなる発展のため、市長をしつかりと補佐し、職員と共に頑張りたい」

山崎清吾（やまざき・せいご）昭和49年に京都府職員。平成25年から京都府立医科大学事務局長。60歳。延町。

上原直人氏が退任

平成20年4月から2期8年間にわたり副市長を務めた上原直人氏＝写真＝が任期満了に伴い退任しました。

退任あいさつ＝「市民の皆様からのご厚情に支えられ副市長の任務を全うできました。心から感謝とお礼を申し上げます」



善聞語録



74

グランドキャニオンに柵はない

掲題は小沢一郎氏のベストセラー『日本改造計画』

自動・自立を民主主義の是と解する米国では、救急車や消防車が駆け付けると料金を請求される州が多い。契約をしていないと火事が発生しても消防車が来ない場合もある。これは極端な話としても、行政サービスが極めて限定的に提供されている一例である。日々のゴミ収集にしても民間業者と地域の有償契約に基づいて運用されている場合もある。

の書きにある、規制の多い日本を皮肉った表現。米国コロラド州の大渓谷グラウンドキャニオンの絶壁に柵はないが、恋人たちは自己責任で大きな岩の先端で戯れる。日本なら「立入厳禁」の立札が並び、管理人が素っ飛んできて注意するであろうと揶揄する。それでも我が国では事故が起きれば公園管理者の責任が問われ、轟轟たる非難が浴びせられる。ならば自己責任と行政の管理責任の境界はどこにあるのであろうか。

米国のシステムを「よし」と言うのではない。行政サービスの限界をどこに置くかを改めて自問している。財源の制約はあるにしても、お金の有無だけの議論で済ませて良いのか。答えは、政府の役割の大小の極の内にある。米国以上、欧州未満に存すると思うが、そもそもグランドキャニオンに柵や立札は似合わないと感じながら、「わがまち」における「境界」を模索している。

山崎善也（綾部市長）